

# 野々市市まちづくり条例策定委員会第三回 議事録

2014年1月20日（月） 19:00～21:00 野々市市庁舎 201会議室

【委員 13名】池田、亥野、大島、大森、小竹、小松、中村、新美、林、藤田、村井、山岸、吉岡

（五十音順、敬称略）

【アドバイザー】神谷浩夫 氏

【ファシリテーター】森山奈美 氏

【事務局 4名】多田、中川、栗山、中谷

【まちづくり市民会議】絹川

【欠席者】絹川（俊）、小堀、谷内

## ◇今回の会議で決定したこと

- ・市民会議がどういう協働を考えているのかを知る。
- ・協働のあり方については、条例は推進指針に考え方を合わせるが、分析などはしっかりと行う。

## ◇主な意見（●は後日意見）

### 【会議全体の感想】

- ・遠回りに感じる方もあるが、確実に理解が進んでいる。メンバーの顔も分かり肩の力も抜けてきた。
- ・ここに来てようやく内容が理解できてきた。自分で思いつかない視点で皆さんが考えているので勉強になる。次回まで野々市市を違った視点から観察したい。
- ・活発な意見を提示いただきました。感謝します。
- ・会、話し合いを増すたびに理解が増している。これからも頑張ります。
- ・何でもやもやしていたかが少しわかってきたように思います。

### 【会議の進行について】

- ・今日も良かった。
- ・大変参考になって良かったです。
- ・実際に話し合う時間が多いと、各人の理解が増し、よりよいアドバイスや盛り上がりが出て来るかと思っています。
- ・ひとつひとつ押さえて進めて下さって理解できてきた

### 【市民会議について】

- ・市民会議とのキックオフに期待している。
- ・総合計画で「まちづくり基本条例」が明記しており、結論ありきの印象があった。

- ・市民会議からの話を聞く事ができた。協働と条例策定の関係も明確になった。
- ・市民会議指針案については現時点での資料があればよかった。
- ・市民会議（10回）の話し合いの内容を策定委員は熟知する必要がある、市民会議の意見を尊重する。
- ・市民協働の再確認と、市民協働推進の指針情報が少し  
だけど共有できたことが印象に残る。
- ・市民会議の議長から現在の状況話をしてもらえてよかった。委員会との現状の差がはっきりしてよかった。

### 【グループワークについて】

- ・課題をさがすのが大変だった。
- ・「課題」「原因」「登場人物」「解決イメージ」との流れを自ら考えることができてよかった。
- ・困っていること（課題）をどう解決すべきか、課題、原因、登場人物、解決イメージの順に再度、抽出した課題で検討したい。
- ・課題、解決プログラムが楽しかった。
- ・課題、原因などの話がわかりやすかった
- ・課題解決のプログラムの時間が短く感じた。
- ・課題の例があり、意見が書きやすかった。

### 【その他の意見】

- ・もっと野々市のことを委員は知るべき。
- ・野々市の進んでいる（保育園を民営化する理由など）計画などの勉強会は必要かなと思います。
- ・地域（まち）を形に、夢が求められるのでは。
- ・地域交流について まち…形、使い方等のハードと、ソフトなもののバランスが出来てないこと。
- ・市民会議、公的イベント、行政の機能、公的施設、団体、色々あるが全体として窓口がわかりにくいので、地域コーディネーターの育成が望まれる。誰がどうやってなるか。
- ・若い人との情報共有も重要（市行政参加情報など）
- ・協働のイメージや協働事業の事例（他の市町村でしていることなどや今後野々市市でできそうなもの）に興味をわいたので、自分に身近な問題について考えると自分自身の意識も上がりやすい気がした。

## 1. 開会

## 2. アイスブレイキング

### ■参加者による今年の正月の過ごし方(別紙参照)



## 3. 前回会議の振り返り、意見交換

### ■前回会議の振り返り

骨子案の段階で議会と情報共有

- ・時間が足りなければ委員会の回数を増やす
- ・会議の後日に浮かんだ意見をメールやFAX等で事務局に提出、次回会議の前に全員で共有する
- ・こういうまちにしたいという意見、こういうまちづくりをしたいというプロセス(How)に関わる意見の見直し

## 4. 市民協働のまちづくり市民会議の紹介

### ■まちづくり市民会議議長 絹川氏のあいさつ

市民会議では、合計21名で会議を行っている。これまでの会議では、まちの理想像や現状、問題、課題などを協議し、各運営委員会で意見をすりあわせたものをまとめ、改めて精査し、出た意見をもとに現在二次案のたたき台が上がっている状況。野々市スタイルの市民協働はこうだというものを書いている。1月30日に開催予定の第11回目の全体会議について条例策定委員会にも参加をいただきたい。2月の中旬に推進指針の市長へ提言し、その後、条例策定委員会と共にキックオフ講演会を行う。紆余曲折あり、今年の3月くらいにできればと思っていたが、1ヶ月くらい短縮できた。現在は1週間から3日で1回程度集まっている。

### ■協働推進指針と基本条例をどうすり合わせるか

- ・まちづくり市民会議は、市民で構成され、市民の目線で行動の地図を起こしたいという思いを協働推進指針、アクションプランにしたいと思っている。
- ・市民会議がどういう協働を考えているのかをまず知っていただきたい。時間はあまり無いが、案を聞いて違和感があるならば修正しなければならない。
- ・協働は、まちづくりを進める際の大事な要素の一つだが、それ以外にも多様な主体が関わる事や、定義等の大事な要素が出て来るがこれは条例の方で検討。協働のあり方については、同じ市で違うことを書くわけにはいかないので、条例は推進指針の方に合わせる。

### ■協働推進指針案について

- ・推進の位置づけ、なぜこういうものを今作るのかという総合計画があつて、市長から市民会議が委嘱されて市民の目線で作っていくという話が始めの方に書いてある。
- ・策定趣旨としては、野々市の歴史文化、元気なまちにしたい、住み良いまちにしていこう、魅力あるまちづくりの主役は、このまちを思い愛する市民だというスタンスで、市民協働のために集い、学び、育み、行動し、成長し続けるプロセスが野々市の次世代に関わるという話がある。
- ・野々市はコンパクトなまちなので、まち全体を野々市キャンパスと見立てる。そのために何をやっていくかという現状の課題の分析をし、その結果、協働は相乗効果があるので、キーワードとしては自発心、連帯感、創造力の3つを掛け合わせていくと野々市キャンパスができると思った。
- ・自発心を育成するためには、人作り、意識づくり、きっかけづくりが重要。連帯感の育成には、仕組みづくり、風土づくり、絆づくり。想像力の向上には、人材づくり、場づくり、空間づくりが必要。
- ・その結果、市民会議は具体的に野々市の市民協働を進める母体となるので、この基本計画に基づいて今後どうしていくかという方向付けのための指針にしていきたい。指針は方向性だけを決めるが、今後どういったことをやっていくかは、今後市民会議と市と一緒に、意見を参考に決めていきたい。
- ・野々市の市民協働はこれから築いていくというスタ

ンスでこの指針を作っている。

- ・協働をどの範囲で定義するか、行政と市民のところだけを協働というのかどうかは議論が分かれるが、行政と市民だけが協働とは考えてはいない。
- ・かつては行政と市民が力を合わせることだけが協働で、市民同士で力を合わせているのは協働とは呼ばないとみなされていた時代もあった。
- ・野々市キャンパスについては、まだ議論しているので、色々と意見をいただいて参考にしたい。

#### ■協働推進指針と基本条例の位置づけについて

- ・総合計画には、指針の前に基本条例の策定について記述されているので、順番が違うと感じた。条例策定の発端というのは選挙の公約、議会の提案、住民団体からの陳情等があった上で総合計画に載った場合がある。大体の中身が指針で決まり、情報共有をするのはいいが、条例策定の立場からすると腑に落ちない。
  - ・総合計画でなぜ市民協働が出てきたのかは、行政の中で今後10年の野々市のまちづくりをどうするかと議論した結果、行政だけでなく、市民と行政が一緒になりまちづくりをする協働というキーワードが出て来て、総合計画をはじめ全てのところに市民協働のキーワードを出した。しかし、市民協働とはどのように進めるか具体的に明記されておらず、市民協働は行政と市民が一緒に進めるという意味だとは理解できるが、実際にどうするのが解りづらいため、先に協働の方針を決めるために市民会議のグループから動き出した。先に指針を設定し、協働とは何かを市民に理解してもらい、市民協働とは何かを定義してから法的な枠にはめこむ予定だった。
  - ・協働については一度、勉強の時間が必要。例えると、協働指針は、生活のルールや方向性を決める同棲、条例は法的拘束力が発生する結婚。同棲すると、生活の中でのルールが発生し結婚しなくても一緒に暮らすための具体的な作法が見える。それが法的拘束力を持つためには結婚して籍を入れる。
  - ・憲章や指針だけでやっていっている市が無い訳ではないので、指針も協働も良いと思うが、いきなり条例を持ってくるのは疑問。
- 籍を入れてから考えるか、お互いのルールを決めてから籍を入れるかということ。
- ・ニセコ町をはじめ条例制定の背景には、NPO法人や地方分権が生まれ出したことがある。NPOをコントロールするために、行政が地方分権と組み合わせて地域の人づくり、まちづくりをやらなければならないという思いがその時代に芽生えてきたのでは。野々市が指針と条例を作る順番が逆だというのは錯覚で、基本的に同時期に動きが生まれているという認識が正しいのでは。総合計画の中の色んな計画が並行して動いているので、実際の動きが遅いか早いかは異なる。住民は選挙で選ぶ力はあっても、生活の面では全然関係なく、政治の世界の人が方向付けを行うが、基本的には市民の力でやっていくという思いで後半に進めていただきたい。定義付けを知るよりは、市民がどうやっていくのかというルール付けという根本が必要では。
  - ・市民が集まった会議なので、野々市に住む市民がこうしたいという思いを形にしようとしている。このまちをよりよくしたいというその気持ち一点で、推進指針を決めていこうと思っている。その過程の中で市民会議と条例策定委員会と協力して、協議したい。
  - ・本委員会は市民会議が10回の会議で積み上げてきた方針をよく理解し、きちんと条例に反映し、追いついて行けるように頑張りましょう。
  - ・日本の国自体が地方分権に変わってきたことが条例を作っていくことにつながったのは間違いない。地方分権は、明治維新で近代国家を作ろうとしたこと、戦後の民主化に次ぐ第三の改革と言われている。国が方針を決めて市町村に指示する時代から、各自治体の人がどうまちを作るかということを決めなければいけなくなった。先に物事が進み、後に法を作る流れになったのも、国全体のまちづくりの方法が変わってきているということをご理解いただきたい。
  - ・市民会議は協働にポイントを置いて、どんな協働指針を作るか、協働をすすめるかを議論するためには、まちがどんなものか、まちの良い所や悪い所の分析を市民会議でも行ったが、本委員会でも行う。市民会議と本委員会で出た意見が重複することもあるが、市民会議で分析したものをそのまま渡しても血にも肉にもならないので、考えてほしい。
  - ・市、市民、議会の位置づけなど広い範囲での条例と、凝縮された指針との住み分けと2つに分かれていると理解していただきたい。

- ・七尾市の基本条例の策定時に、大事にしたいまちづくりの進め方として、まず行政か市民のどちらかが情報を持っているだけだといいいまちづくりはできないので、情報共有。もう一つはどの立場の人がどれをやるべきかという役割分担を定義した。この委員会では条例を決めるが、指針は協働を主に取扱う。この時に必要になってくる仕組みや取り決めがあるが、協働をするためには、情報共有も役割分担も必要。七尾市の場合は、基本的に協働指針を作るために、情報共有と役割分担は協働に帰属するという形になる。
- ・指針というのは、私たちが進もうとする方向性で、条例だと強制力が出てくる。それは市民会議の中では取扱わない話なので、条例の中で進める。
- ・野々市の条例でまちづくりに関する情報は、市民と行政が共有できるという条文を入れると、市役所の職員がまちづくりに関係する情報を市民に理解できる形で出さなかった場合は条例違反だと指摘できるが指針だけだと指摘できない。

#### ■市民会議の指針作りのあとの将来像

- ・情報整理で分かってきたが、おそらく活動をする際のバックアップとなるような条例をここで作ればいいと思うが、何かイメージをあれば教えてほしい。
- ・市民会議では、2年目以降のことは検討中だが、方向性としては2年間の任期の中で、1年目は推進指針の策定、2年目はPR並びにアクションプランの一部を行う。取り組みの流れとしては、自発心、連帯感、創造力をどういう風に市民に広めて行くかということからスタートする。

#### 5. 前回会議の振り返りまちづくりにおける課題 グループワーク

野々市で暮らしている中で日頃感じていること、いいまちだなと思うことよりも、ネガティブな意見を出す。個人的に感じていること、聞いた話、理想として現実を感じていることを書く。



【課題】：一人暮らしの高齢者が暮らしにくい

【原因】：高齢者が車を運転できない、道は車を基準に作られていて歩きにくい、近所の人と交流が無い、子供が離れて住んでいる、どの人が一人暮らしなのかが分からない等

【登場人物】：登場人物：町内会、市の福祉課、福祉系のNPO法人

【解決イメージ】：一人暮らしの高齢者の家に雪が積もった時は除雪をしてくれる人が近くにいる、ゴミを捨てる時に助けてくれる、高齢者が集まりやすい場所がある、生き甲斐をもって何かを作ったり、誰かにものを教えたりができていて、行きたい所に連れて行ってくれる、安心して行ける相談窓口がある、どこに一人暮らしの高齢者が住んでいるかを町内会長が把握している等



#### ■大森チーム

【課題】：大人と子供の交流がない

【原因】：子供が塾や習い事で忙しい、一人で遊ぶゲームの流行、核家族化が進み大人や子供の会話自体が少ない、家族間での顔を合わせる回数も少ない、交通事故やケガなど外で子供が遊ぶことが難しい世相になってきている



【登場人物】:子供本人、子供会や学校、町内会の大人、子供の少し上の世代で子供を指導したり一緒に遊べる学生、子供に技術を教えたり会話できる大人

【解決イメージ】:家族だけではなく他人の子供も含め、大人と子供の集まる場所がたくさんあると良い。また、指導できる大人を育成していくことも大事。行事を伝えるだけでなく、他人の子供と話のできる大人の研修の場があっても良い。

### ■小松チーム

【課題】:北國街道の本町通りに歩く人が少ない

【原因】:本町地区の住民の高齢化、人口の減少と核家族化、商店が大型化し郊外に移転、本町通りを通る車がスピードアップして危険、人を集める施設がない

【登場人物】:地域住民、市役所の市民協働課、生涯学習課、町内会、そこに住んでいる人

【解決イメージ】:本町地区に人々が集える施設で駐車場があるものを作ると色々な人が集まる、歩行者が安心して歩けるように道路を一方通行にする、自転車専用レーンをつくることで野々市は平坦な道なので自転車にとってもちょうど良い道になる、商店でも7時から10時まで遅くまで営業している商店街であれば利用者が増える、町家再生でリノベーションすることで高齢化した一人暮らしの方に同居してくれる人が出来たり、シェアハウスで人が増えれば活性化する。

### ■新美チーム

【課題】:若い人が市について知る、考える機会が市の参加する機会が少ない

【原因】:まちが当たり前があるので関係がないと思われ興味がなく面倒だと思われる、知る機会がない。例えば、義務教育時代は学校の授業で御経塚遺跡などに行ったり、社会の授業で野々市について調べる機会がありましたが、大人になると自発的に調べないと知る機会がないということがあります。

【登場人物】:登場人物は、町内会、情報を置いてくれる場所や人、行政、当事者の若い世代

【解決イメージ】:フェイスブックのような若い世代が使うツールや掲示板、若い人が参加しやすいもの、カフェや美容院若い人がよく利用する場所に市の情報を置く。イオンに広報が置いてあると聞いたが、建物が

広くて素通りしてしまうと思ったので、ふらっと寄るところに置いてほしい。参加しやすく興味をひく面白い情報があつて、きっかけづくりになればという考え。

### ■中村チーム

【課題】:町内活動に参加する人が少ない

【原因】:野々市には地域に新規参入者が多いがケアが全く足りていない、近所の人がどんな人か分からない、他からの参入者が野々市にまだ愛着があるわけではなくこれからということ、地区と校区が異なる地域が多くて学校という一つの社会とリンクしていない

【登場人物】:町内会、学校、子供会、それらが複合にできるコーディネーター

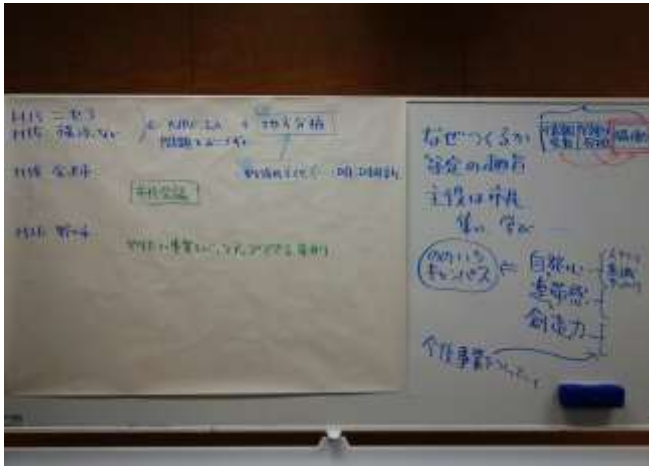
【解決イメージ】:新しい方には会話をしたり、イベントへの参加を促すために役割を与える、町内会長が新規の方にご挨拶にすすんで行くことをしないと輪はなかなかできない。住人の情報共有も必要で、全体をコーディネート、一つの問題が起こった時に視野を広く全体が見渡せる人が必要。



### ■まとめ

登場人物を出してもらったのは、登場人物を誰がつなげるのかということを考えてもらいたかった。4名の発表を聞くと、課題を解決する時に重要なのは、

- ・人々が集まれる場所
- ・情報提供あるいは情報共有
- ・コーディネーター



この条例では How を取扱うが、私たちが詳しくイメージをしていかなければいけないのは、どのような流れで How をルール化するか。交流できる施設が欲しいという意見は what に入るが、条例に関わる部分。

前回のものと、課題から出てきた必要なもの、こんな仕組みがあればまちづくりの課題が解決しやすくなるというルールを少しずつ決めていく。今日書いてもらったものは要素として条例に盛り込むキーワードを事務局でピックアップして次回の委員会の最初に確認。課題の抽出は網羅することではなく、具体例として考えるための事例として課題を抽出した。抽出した意見が総合計画にそのまま載る訳ではない。

#### ■意見

- ・この進行のスピードで大丈夫なのか心配。
- ・自発心、連帯感、創造力やキャンパスの話、コーディネーターの育成の話があったが、皆さん分かっているのでは。テーマを話していて近づいたと思っても、一瞬かけはなれたと感ずることがある。

#### ■神谷先生より

グループの参加席ではないところで見えていたが、解決のイメージを促進する条例とはどのようなものか考えていた。条例といいながら禁止事項ではなく、むしろ促進する、バックアップのための条例になればと思ったのが今日の発見。ペナルティのようなマイナスではなく、アクセルのようなプラスの感じ。

#### ■藤田会長より

前回の振り返りから、専門的ではないかという意見もあったが、一つの流れを早くやっつけていかないと、情報共有のレベルでは追いつかないのではないかと。委員の知識を使って先に動いている市民会議ともう一度整合性をとっていきたい。条例ありきという話もあったが、実生活では指針の方が活動要件として高いと思うので、条例を作られた方々は日々の活動の中で活かしていただければと思います。優先順位が高い低いという話ではなく、条例を制定することで物事が少し進みやすくなる程度だと思っているし、日々の生活ではたくさんやるべきことがある。

#### 6. 閉会

#### ◇次回への課題

まちづくり課題の整理。課題を解決するためには市民や行政はどのような役割を果たせばいいか。